



あまうち

舞鶴市立余内小学校
令和5年度学校だより
第13号
令和6年3月1日発行

校区教育目標

自らの未来を切り拓く「生きる力」を
身に付けた次代を担う児童生徒の育成

次のステージへ ～一步一步確かな歩みを～

少し前の話になりますが、1月28日（日）に行われた大阪国際女子マラソンで前田穂南選手が19年振りに日本記録を更新しました。前田選手は、東京オリンピックの代表となりましたが33位、その後、相次ぐケガに苦しみながらも、昨年行われたパリオリンピックの代表選考レースMGCに出場。しかし結果は7位で、代表を決めることはできませんでした。それでも不屈の精神で目標に向かって自分の力を高め続け、2大会連続のオリンピック出場へ大きく前進したのです。



トップレベルのアスリートと比べられないかもしれませんが、それぞれの立場・環境を超え、学ぼうとする姿勢、得るものを探そうという姿勢が大切なのだと考えます。「このままでは終われない。」という、前田選手のまさに『まけじ魂』は、余内小学校でも大切にしているものです。また、前田選手は大会前に目標を聞かれ、記録更新を「アレ」と話されたことも話題になっていました。流行語大賞にも選ばれた「アレ」です。目標を掲げることが自分にプレッシャーとなり、その言葉を使わせてもらったそうです。学校では目標を立て、そこに向かって努力することの大切さを説いています。その目標は、必ずしも、公然と掲げなくてもよいのかもしれませんが、目標を立て、まけじ魂を胸に、努力を続ける。余内小学校でも、今後とも大切にしていきたいと思います。

先日は、6年生を送る会を実施しました。どの学年も、6年生のために、という共通の思いを胸に、劇や合唱・合奏、準備や進行に、練習の成果を精一杯発揮して6年生への思いをしっかりと伝える、素晴らしい送る会を創り上げることができました。そして、6年生は、入学式の日や、入学間もない学校生活の中で、優しく声をかけてくれたり、一緒に遊んでくれたりした6年生のことを、速く歩けない1年生のために、ゆっくりと歩いてくれた6年生のことを、ずっと忘れずに、「自分も6年生になったら・・・。」と、6年生の姿として目標にして、その姿を手に入れた人も多かったのです。これは、今回だけのことでなく、何年も、何十年も続いているであろう、素敵な心のつながりです。6年生を送る会は、このような形としては見えない心のつながりが、大成功に導いてくれるのだと強く感じています。

3月に入り、6年生は卒業式も含めて、1年生から4年生は修了式も含めて登校日は14日、5年生は15日となりました。残り少なくなりましたが、慌てず、一步一步確かな歩みを積み重ね、令和5年度のまとめをしていきたいと考えています。

3月もご協力・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

校長 藤原 篤美
教職員 一同